

## 開室3年目を迎えて

キッズケア・青い鳥は平成29年に開室し、4月から3年目を迎えます。おかげさまで、平成30年度の年間利用延べ人数は708名となり、初年度の150%増となりました。現在にじいろ通信の配信やブログなどを通して情報発信をしていますが、まだまだ病児保育の存在が十分に認知されているとは言えません。これからもさまざまな機会を利用して市民の皆さんに周知していただけるよう努力していく所存です。

近年、地域のつながりが希薄化し、育児の孤立化が目立つようになってきました。そのため安心して子どもを産み育てるには社会全体で育児を支援しなければいけない時代になりました。病児保育はその一翼を担い、働くお母さんお父さんのセーフティネットとしてお役に立てるよう職員一同励んでまいりますので、今後ともよろしくお願ひします。  
(院長)

キッズケア青い鳥利用状況（平成30年4月～平成31年3月）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数	15	21	20	19	20	18	19	18	16	19	19	20	224
利用人数	33	38	58	68	57	72	57	46	51	97	66	65	708
キャンセル数	7	14	15	34	7	25	25	18	28	25	21	28	247



### シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ①

～ 発達を学び、発達の一歩前の活動を知り、発達を促す保育を！～

#### 発達の質的転換期

- ・発達には大きく変化する時期があります。  
(質的転換期：7ヶ月・1歳半頃・9歳頃)  
※それがどんな特徴を持つかは、後々紹介していきます。

発達には、子どもによってスピードは違うものの、皆同じ道筋をたどります。

発達は自分の力だけではできません。まわりの人のまなざしや共感が必要です。保育者は「〇〇ができるようになりたい」という願いを高めるような活動（一歩前を行く活動）を、用意していかなければなりません。

次回は、2か月ごろの発達を紹介します。

“発達”は子どもの願いから始まる”  
白石正久著より

### 3月のご利用状況

3月の利用延べ人数は65名、一日平均利用人数は3.3人でした。年齢別では、2歳児が18名(28%)で最も多く、次いで1歳児16名(25%)、4歳児の10名(15%)の順でした。疾患別では、A型インフルエンザと急性上気道炎が19名(29%)で最も多く、次いで多かったのはヒトメタニューモウイルス感染症10名(15%)でした。3月に入りインフルエンザが下火になり、代わってヒトメタニューモウイルス感染症が増えてきました。